

# 恐竜研究連携、交流密に

## モンゴル科学アカデミー 岡山理科大が協定再締結



協定書にサインし握手する  
柳沢学長（左）とツォクト  
バートル所長

【ウランバートル22日稿垣心也本紙記者】モンゴル・ゴビ砂漠の恐竜化石を共同調査している岡山理科大（岡山市北区理大町）とモンゴル科学アカデミー古生物学地質学研究所は22日、恐竜研究に関する連携協定を再締結した。今年12月で切れる協定期間を2021年3月まで延長するとともに、標本や人材の交流を一層密にする。

同大は林原（同市）の恐竜研究事業を引き継いだ13年10月、同研究所と協定を結び、15年からゴビ砂漠での発掘に着手。今夏は7月30日から約1カ月間の日程で、南ゴビ県に点在する白亜紀後期の恐竜化石産地を共同調査している。

ウランバートルの同アカデミー本部で行われた調印式には柳沢康信学長ら同大関係者8人と、アビド同ア

カデミー副総裁、ツォクトバートル同研究所長らモンゴル側6人が出席。柳沢学長とツォクトバートル所長が協定書にサインした。

協定では新たに、化石の研究権利を共同所有とし、同大がより長期に研究できるようににしたほか、モンゴルから年間4人の若手研究者を受け入れることなどが盛り込まれた。アビド副総裁は「日蒙両国にとどまらず世界の研究に貢献できる成果を協力して上げていきたい」、柳沢学長は「協力体制が強化され、「恐竜の理大」に向けた大きなステップになる」とした。

同大は23日にはモンゴル国立教育大とも、海水・淡水魚を一緒に飼育できる「好適環境水」を利用した同国での養殖システム確立などについて交流協定を締結する。